0507873HK0701

MITSUBISHI

三菱クリーンヒーター®
〈密閉式石油ストーブ〉

形名
VKT-402RC
VKT-302RC
据付工事説明書

販売店・工事店さま用

■据付工事を始める前に必ずこの据付工事説明書をお読みになり、正しく安全に据付けてください。
■据付工事は販売店または専門の工事店さまが実施してください。
お客さま自身で据付工事をしないでください。
（ご自分で据付工事をされ、不備があると排気ガス漏れ、感電、火災の原因になります）
※お客さま自身で据付工事をされた場合の故障・事故に関しては保証できない場合があります。
■据付工事部品は必ず付属部品およびシステム部材をご使用ください。
（付属部品およびシステム部材を使用しないと故障の原因となります）
■買い換えの場合も新しい給排気部品を使用して据付工事を行ってください。
（排気筒はずれ検知装置が誤作動したり、排気ガス漏れ、油漏れの原因になります）

もくじ

ページ
安全のために必ずお守りください …… 火災、事故防止等安全について …… 1～5
開梱 …… 付属部品および使用箇所の確認 …… 6
据付方法 …… 壁穴工事、標準給排気工事 …… 7～10
延長給排気工事について …… 11～12
標高・給排気設定のしかた …… 13
据付工事後の点検・確認 …… 14
試運転 …… 15～16

据付情報

据付け時に標高調節と給排気条件の設定が簡単にボタン操作でできます。
据付け時に設定を行ってください。

手順 …… ページ 13 参照

安全のために必ずお守りください

■誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、つぎの表示で区分して説明しています。

⚠危険	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷に結びつくもの
⚠警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
⚠注意	誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

安全のために必ずお守りください

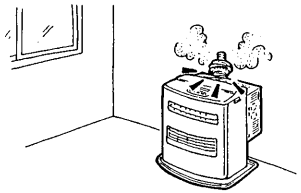
禁止を表わす
指示に従い必ず行う

据付場所の確認

据付場所を決めるときはお客さまと良く相談してください。

⚠危険

屋内給排気厳禁



（異常燃焼し、一酸化炭素中毒の原因になります）

⚠警告

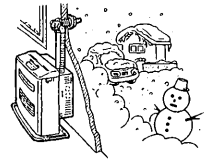
据付けや移動は販売店へ依頼すること

（お客さま自身で据付工事をされ、不備があると排気ガス漏れ、感電、火災の原因になります）

火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事は指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守る

給排気筒トップ閉そく危険

積雪の多い地方では、給排気筒トップが雪で埋もれない位置に取付けること
また、板などによる「雪囲い」はつけないこと

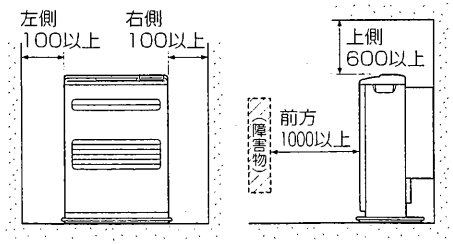


（排気ガスが室内に漏れ、一酸化炭素中毒の原因になります）

⚠注意

可燃物との距離を離す

●火災予防と裏面の点検のために「石油燃焼機器設置基準」に定められた空間寸法。
●据付工事、エアーフィルターの清掃、アフターサービスに必要な空間寸法。
●壁のビニルクロスの変色防止、温風の短絡防止に必要な空間寸法。



	理　由
上側	カートリッジタンクの出し入れ、据付工事、エアーフィルターの清掃、アフターサービス、裏面の点検
左側	ビニルクロスの変色防止
右側	アフターサービス
前方	温風の短絡防止・可燃物の変色・火災防止

単位（mm）

● 本体後面の空間距離は「10cm 以上」必要です。本体付属の背面カバーで「10cm 以上」が確保できます。
● 本体後面には必ず背面カバーを取付け、背面カバーと壁との間にはすき間をあけないでください。
（カーテンや紙などが入りますと、こげたり、においなどの原因となります）
●電源プラグの抜き差しが容易にできるようにしてください。

⚠注意

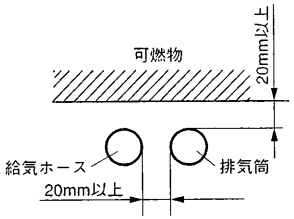
次のような場所には据付けない
- ●水平でない場所、不安定な場所
- ●不安定なものを乗せた棚などの下
- ●可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所
- ●付近に燃えやすいものがある場所
- ●階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所
- ●温室、飼育室など人のいない場所

（火災や予想しない事故の原因になります）

●浴室など湿気の多いところに据付けない

（感電の原因になります）

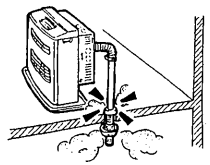
排気筒と可燃物の離隔距離



給排気について

⚠警告

床下給排気禁止
必ず屋外に排気してください



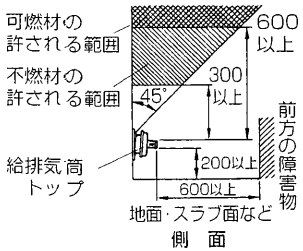
（排気ガスが室内に漏れ危険です）

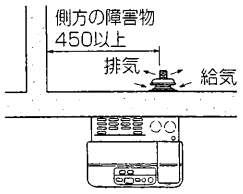
はずれ危険
排気筒を確実に接続し、しっかり固定してください

（振動、衝撃などで、はずれたりすると運転中に排気ガスが室内に漏れ危険です）

⚠注意

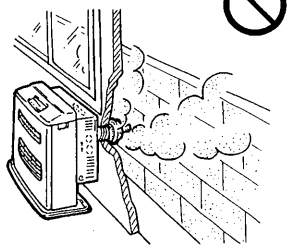
給排気筒トップは、十分開放された空間に取付ける
下図の寸法は防火上の必要寸法です





単位(mm)

排気ガスを滞留させない
給排気筒トップは、周辺に建築物の突出物等や障害物のあるところには取付けない



（排気ガスが給気側へ流入すると運転停止〔E-01，E-13〕することがあります）

⚠注意

排気ガスが室内（隣家も含め）に入りやすいところには据付けない

（室内空気が汚染されます）

排気ガスに注意
愛がん動物や植木などに排気ガスをあてない

（動物が死んだり、植木が枯れる原因になります）

30m以上の高所には給排気筒トップを取付けない

（トップフードが落下した場合、けがをする危険があります。どうしても取付ける場合はトップフードが落下しないよう接着剤等でトップフードを固定してください）

高層建築の集合煙突を利用しての給排気工事は絶対行わない

（運転停止したり、不完全燃焼の原因になります）

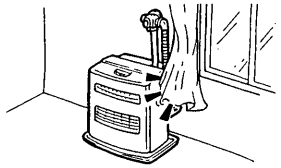
2台以上据付ける場合は各々の給排気壁穴の間隔は、水平方向に500mm以上、または垂直方向に1m以上離すこと

（排気ガスの給気口への吸い込みによる運転停止や不完全燃焼の原因になります）

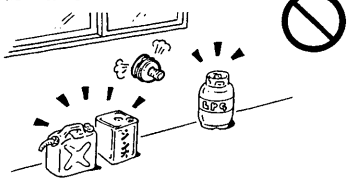
給排気筒の点検

（取付けが終ったら、もう一度点検してください）

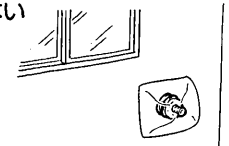
可燃物近接禁止



危険物近接禁止

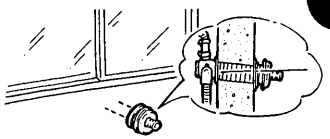


ビニール袋などを給排気筒トップにかぶせない

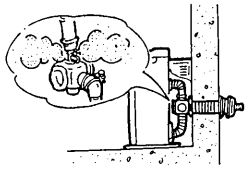


（異常燃焼の原因になります）

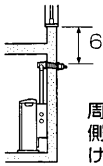
給排気筒トップは屋外に向かって下り勾配のこと



接続部のゆるみ点検



給排気筒トップと開口部との距離は離す



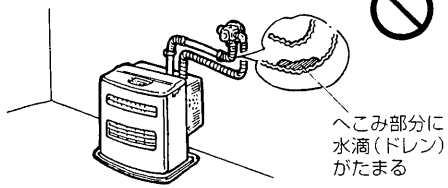
周囲の開口部から下方600mm以上、側方150mm以上離す（暖房機を据付けた部屋の窓や浴室の窓等は除く）

安全のために必ずお守りください

延長工事について

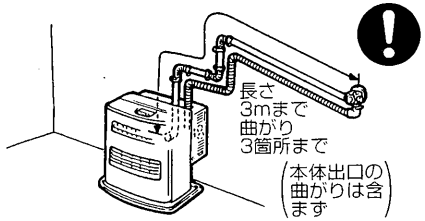
⚠注意

排気筒の途中に水滴(ドレン)がたまるようなへこみ部をつくらない



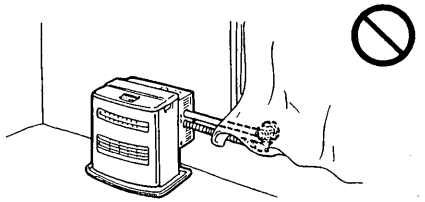
(排気ガス中のドレンが排気筒内にたまり、運転停止や、不完全燃焼の原因になります)

給排気の延長可能な長さは3m以内で、曲がり3箇所以内とする



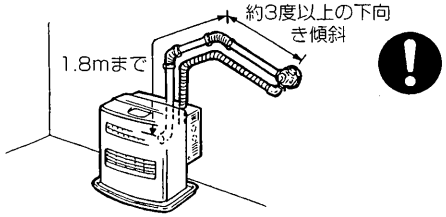
(これ以上長く延ばしたり曲がりが多くなりますと燃焼空気が不足し、運転停止や、不完全燃焼の原因となります)

カーテンなど可燃物を排気筒に接触させない



(火災の原因になります
排気筒の近くにカーテンなどの燃えやすいものがある場合は、100mm程度以上離すか、配管カバー[システム部材]を使用してください)

排気筒のドレンもどり長さは1.8m以内とする



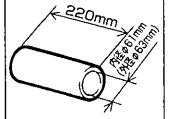
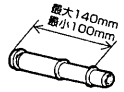
(燃焼によって発生する水滴[ドレン]のもどりは、排気筒長さが1.8m以上になると、製品内部にドレンがもどり、燃焼器を腐食させることがあります。そのために1.8mを超える部分は給排気筒トップ側に約3度以上の下向き傾斜をつけてください)

据付け前のお願い

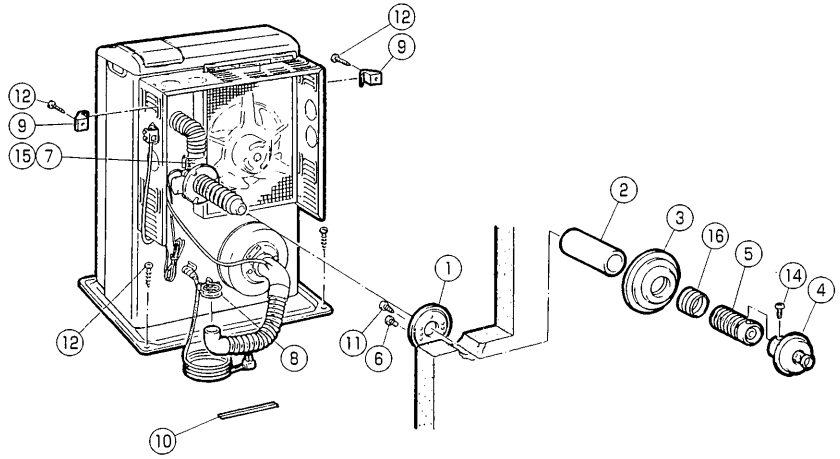
給排気筒トップの先端(排気口)からドレン(水滴)が池に落下したり腐食させる恐れがあるところには取付けない	特殊環境(温泉害、塩害、大気汚染、化学薬品を使用する場所)には据付けない (腐食・劣化の原因になります)	標高1500m以上の高地では据付けない (空気不足により運転停止をしたり不完全燃焼の原因になります)
●直射日光の当たる場所に据付けない	熱に弱い床面は保護する 熱に強いマット類を敷いてください (吹出口前方の床面は40~50℃程度になります。床面によっては変色したり、変形・収縮することがあります)	毛足の長いじゅうたんの上に置く場合は、安定のよい敷き板などを敷いて水平にする (製品が不安定になったり、じゅうたんが変色することがあります)
●右側面に壁がある場合は現在温度検知サーモの位置を移動してください (室温調節が正しく行われないことがあります)		

開梱

付属部品の確認

①室内傾斜フランジ …1個	②絶縁パイプ …1個 	③室外傾斜フランジ …1個	④トップフード …1個	⑤中間パイプ …1個 (本体に付属)	⑥給排気筒トップ取付ネジ(皿ネジ)…3本 (延長給排気工事のみ)
⑦C形ストッパー …2個 (1個は本体に取付けてあります)	⑧給気ホースバンド …1個	⑨壁固定部品 …2個	⑩コードバンド …2本	⑪室内傾斜フランジ取付ネジ …3本	⑫壁・床固定用ネジ(木ネジ) …4本
⑬リードクリップ …2個 (壁サーモ固定用)	⑭トップフード取付ネジ …1個 (中間パイプに付属)	⑮伸縮管…1個 	⑯壁厚対応スペーサー …3個 (壁厚が134~81mmのとき使用します)	⑰スポイト…1個 (お手入れのとき使用します)	

付属部品の使用箇所



※⑬は延長部品のためこの図では表示していません。

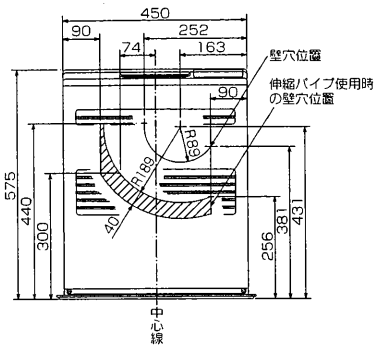
据付方法(標準据付け)

壁穴工事

[お願い]

- 穴をあける際、壁内のスジカイ・電気配線・ガス・水道の配管などに当たらないところを選んでください。
- ラス網等は十分カットし、これらの金具部分に給排気筒トップが接しないよう電気的絶縁を行ってください。〔電気設備技術基準（第203条）参照〕
- 電源コンセントが製品の裏面にかくれないようにしてください。

1



壁穴位置決め

標準給排気方式の場合、左図により、壁穴位置を決める。

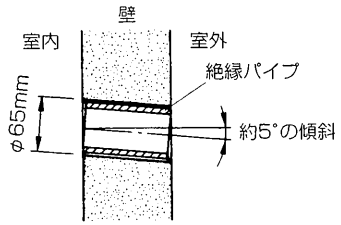
付属の給排気筒トップの壁密着取付可能な壁厚は135～220mm

- 壁厚に応じたシステム部材の選定

壁厚に応じて下記の付属部品およびシステム部材が必要です。　単位(mm)

壁　厚	システム部材	備　考
1～80	VGZ-21SP（薄壁対応スペーサー）	壁密着取付けができません
81～134	付属の壁厚対応スペーサー	
90～135	VGZ-09ST（薄壁対応給排気筒トップ）	壁密着取付けができます
220～305	VGZ-30UGM2	
305～390	VGZ-39UGM2	
390～475	VGZ-30UGM2+VGZ-39UGM2	
475～560	VGZ-56UGM2	
560～645	VGZ-30UGM2+VGZ-56UGM2	
645～730	VGZ-39UGM2+VGZ-56UGM2	

2



壁穴あけ

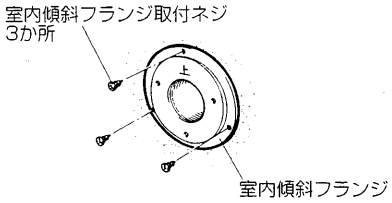
φ65mmホールコアドリルにより室内から室外に向けて約5°の下向き傾斜で穴をあける。(穴の直径が100mmより大きくならないよう注意してください)

絶縁パイプの切断

絶縁パイプを壁の厚さに合わせて切断する。

標準給排気工事　(製品本体側の準備)

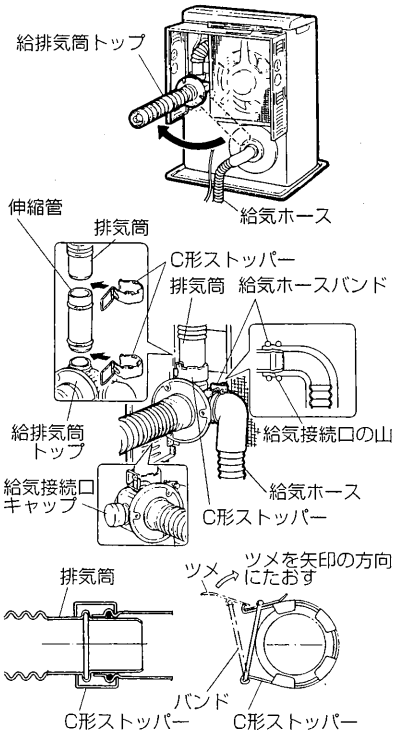
1



室内傾斜フランジの取付け

壁穴の室内側に室内傾斜フランジを室内傾斜フランジ取付ネジで固定する。
室内傾斜フランジの「上」の文字が上になるように取付ける。

2



給排気筒トップと給気ホースの取付け

(1) 排気筒を回転(矢印の方向に約90度)させる。

(2) 給排気筒トップには給気接続口が2か所あります。取付けやすい給気接続口に給気ホースを接続する。

(3) 付属の給気ホースバンドで給気接続口の山をまたぐように締め付ける。

(4) 使用しない給気接続口には給気接続口キャップを必ず取付ける。

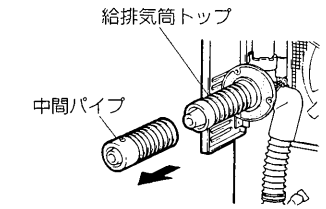
付属の伸縮管を使用する場合

(1) 排気筒のC形ストッパーをはずす。

(2) 伸縮管を排気筒と給排気筒トップに差し込み、接続部にC形ストッパーをはめ込み固定する。

- C形ストッパーは、抜け防止と排気筒はずれ検知装置の電気的導通の役割を果たしていますので必ず取付ける。

3



中間パイプをはずす

給排気筒トップにねじ込んである中間パイプをはずす。

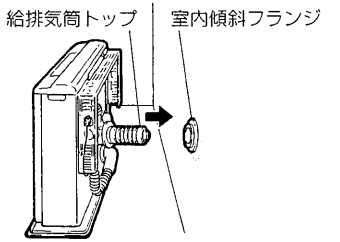
8 裏面へ

据付方法(標準据付け)

標準給排気工事 (製品本体側の準備 つづき)

4 排気筒はずれ検知リードの固定

給排気筒トップに取付けてある排気筒はずれ検知リードを排気筒部分に触らないようにコードバンドで固定する。



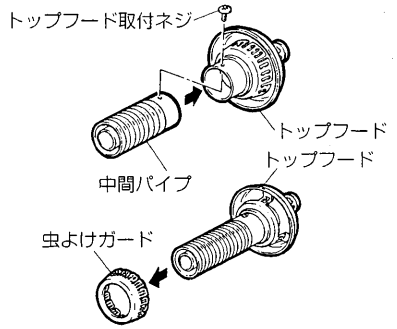
製品(給排気筒トップ)の壁穴差し込み

(1)製品をずらし、給排気筒トップのフランジ部が室内傾斜フランジに接するまで壁穴に差し込む。

(2)絶縁パイプがはずれていないことを確認する。

給排気筒トップの固定

1



中間パイプとトップフードの取付け

(1)中間パイプに取付けてあるトップフード取付ネジをはずす。

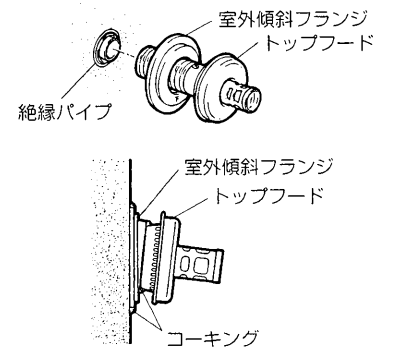
(2)中間パイプをトップフードにはめ込み、ネジ穴を合わせてトップフード取付ネジで固定する。

寒冷地で使用する場合

外気温が−15℃以下になるような地域では
虫よけガードをトップフードからはずして据付ける。

- はずさないとガード部に霜が付着して、給気口がふさがれ、安全装置が作動して運転を停止することがあります。
- 寒冷地では、虫の侵入の可能性は少なく、虫よけガードをはずしても大丈夫です。

2



室外側から室外傾斜フランジ、トップフードの取付け

(1)室外傾斜フランジを中間パイプに通す。

(2)室外傾斜フランジを「下」印が下になるように注意して壁に密着させたまま、中間パイプを組付けたトップフードを時計方向に回し、室外傾斜フランジに密着させる。

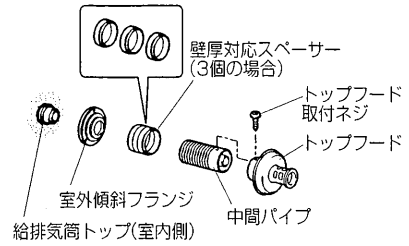
※ 室外傾斜フランジの外周およびトップフードの外周にパテまたはコーキング材を塗布し、壁の中へ雨水が浸入するのを防いでください。

※ 室外傾斜フランジの壁へのネジ固定が必要な場合は、裏面の凹部(3か所)を市販のタッピングネジで簡単にやぶって貫通することができます。

30m以上の高所には給排気筒トップを取付けない

(トップフードが落下した場合、けがをする危険があります。どうしても取付ける場合はトップフードが落下しないよう接着剤等でトップフードを固定してください)

3



壁厚が134~81mmのとき

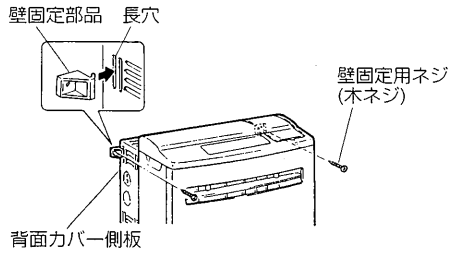
■壁厚と使用数量

壁 厚 (mm)	134~113	112~97	96~81
スペーサー使用数量	1個	2個	3個

(1)付属の壁厚対応スペーサーを図の位置に挿入する。

(2)中間パイプとトップフードをトップフード取付ネジで固定した後、時計方向に回して固定する。

製品の固定



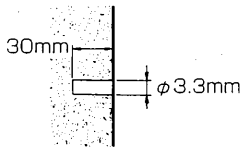
壁の固定

付属の壁固定部品を背面カバー側板の長穴を使用して製品と壁面を固定する。(2か所)

- 壁の種類により固定のしかたが異なります。(下記参照)

壁が木または厚い合板の場合

付属の壁固定用ネジ(木ネジ)2本を使用して壁固定部品を壁に固定する。



壁が石膏ボード・薄い合板・土壁・しっくい壁などの場合

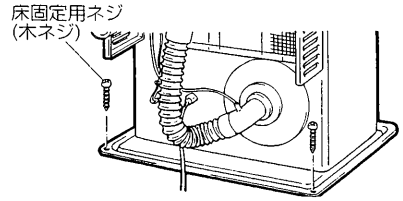
① 壁にそえ木をする。
② 付属の壁固定用ネジ(木ネジ)で壁固定部品をそえ木に固定する。

壁がコンクリートの場合

① 左図のように下穴(φ3.3mm、深さ30mm)をあける。
② 付属の壁固定用ネジ(木ネジ)で壁固定部品を固定する。

床の固定

付属の床固定用ネジ(木ネジ)2本を使用して床に固定する。



床がコンクリートの場合

① あらかじめ下穴(φ3.3mm、深さ30mm)をあける。
② 付属の床固定用ネジ(木ネジ)で床に固定する。

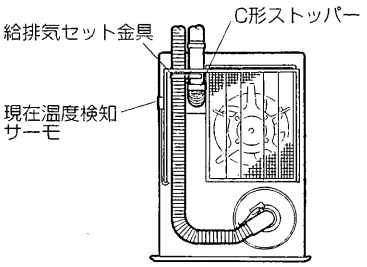
延長給排気工事について

標準給排気工事ができない場合に延長給排気工事を行いますが据付場所に応じてシステム部材の給排気セットが必要です。

延長工事詳細については当社のシステム部材に同梱の「取付説明書」をお読みください。

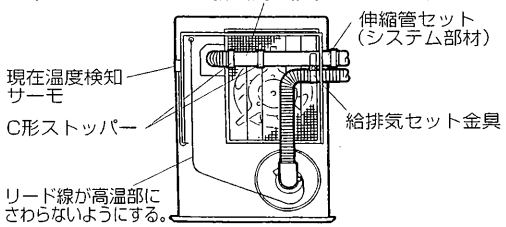
上側・左側・右側への延長給排気工事要領 〈システム部材を使用〉

〈上排気〉(背面カバーをはずして工事を行う)

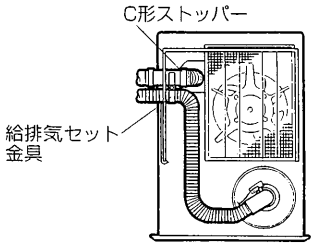


〈左排気〉

付属の伸縮管およびシステム部材を使用して図のように配管してください。
(エアーフィルターが排気筒に接触しないこと)



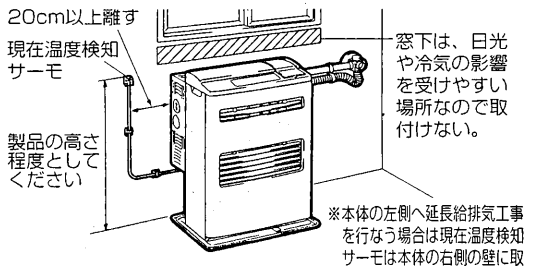
〈右排気〉(背面カバーをはずして工事を行う)



＊右排気の場合は現在温度検知サーモの移動が必ず必要です。
(右図を参考にしてください)

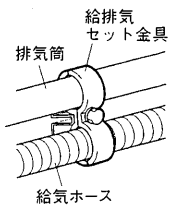
現在温度検知サーモ取付位置移動の場合

① 現在温度検知サーモ(カバー)を上方にスライドさせてはずす。
② 現在温度検知サーモ(カバー)を温風・直射日光・冷気の影響を受けない位置にカバー裏側の両面テープを利用して取付ける。
③ リード線は付属のリードクリップで高温部に触れないように止める。



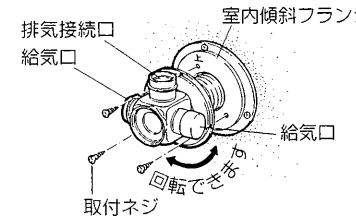
お願い

- **排気筒・給気ホースを現在温度検知サーモに近づけないようにしてください。**
  (室温調節が正しく動作しないことがあります)
- **上側・左側・右側へ延長給排気工事を行う場合は、給排気セット金具を使用して給気ホースと排気筒を20mm以上離してください。**
  (接触すると給気ホースが溶けて異常燃焼するおそれがあります)
- **排気筒の長さより給気ホースの長さを極端に短かくしないでください。給気ホースの長さを排気筒の長さと同等か長めにしてください。**
  (異常音が発生することがあります)
- **横引き配管する場合は給気ホースを排気筒の下側になるようにしてください。**
  (給気ホースが上側の場合たれて排気筒に接触することがあります)
- **可燃壁貫通するときはシステム部材のメガネ形ブッシュ(VGZ-3BU2)を使用してください。**
  (使用しないと低温発火の原因になります)



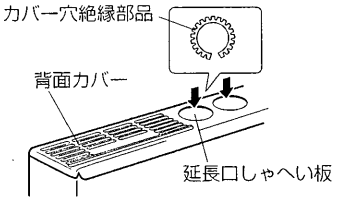
延長給排気工事について

1



壁穴に取付けた室内傾斜フランジに、給排気筒トップを取付ネジで取付ける。

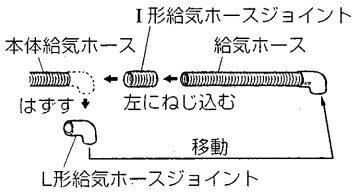
2



背面カバーの延長口しゃへい板の取りはずし

- 製品に取付けたまま延長口しゃへい板をたたくと背面カバーが変形するので必ずはずす。
- 延長口の内周にシステム部材の伸縮管セットに入っているカバー穴絶縁部品を取付ける。

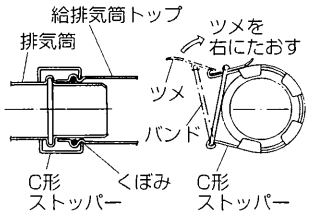
3



給気ホースの延長

(1)延長用伸縮管セット(システム部材)の延長用給気ホースを接続する。
(2)本体給気ホースのL形給気ホースジョイントとシステム部材のI形給気ホースジョイントを付け換える。
(3)給排気セット金具を使用し、給気ホースと排気筒を20mm以上離す。

4



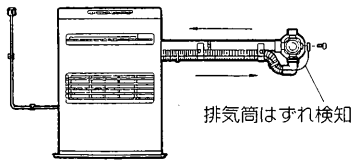
排気筒と給排気筒トップの接続

(1)排気筒と給排気筒トップを接続する。
(2)C形ストッパーを差し込んで、バンドを掛ける。
(3)取付け後、ストッパーがきいているか排気筒を引っ張って確認する。

お願い

- C形ストッパーは製品組込みおよびシステム部材に同梱されているもの以外は使用しないでください。
- 無理に接続しないでください。
  (Oリングのねじれが発生することがあります)

5



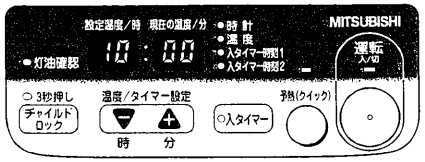
給排気筒トップの先端に排気筒はずれ検知リードが取付けてあることを確認する。

- リード線の有効長は3.5mです。
- 余ったリード線は本体側でクリップで束ねる。

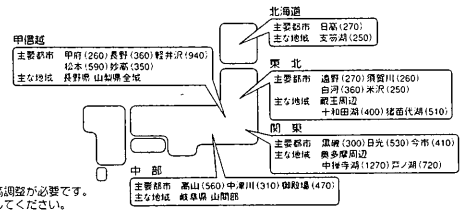
標高・給排気設定のしかた

据付け条件に合わせ設定を行う。

据付場所の標高・給排気条件により変化する燃焼状態を適正範囲に調節するためです。



標高調節の必要な主要都市及び主な地域



※数字は標高(m)を表します。
※上記以外の山間部地域でも標高調整が必要です。
地図等で標高を確認し、調整してください。

表示部・操作部

1 設定温度/時 現在の温度/分 → HH : 1

初めて設定する場合

電源プラグを差し込む

●「ピッ」と音がして、「標高・給排気設定」モードになる

メモ

工場出荷時
- HH：標高モードを表示する
- 標高1ランク(0~250m)
- 標準給排気

2 **標高・給排気設定のしかた**

＋ －ボタンを押して右表により設定する

＋ ボタンを1回押すごとに
1 ➡ 1L ➡ 2 ➡ ･･･5L ➡ 6 ➡ 6L
と変わる

－ ボタンを1回押すごとに
1 ➡ 6L ➡ 6 ➡ ･･･2L ➡ 2 ➡ 1L
と逆回りする

標　高(m)	標準給排気(工場出荷時)	延長給排気
0~250	1	1L
250~500	2	2L
500~750	3	3L
750~1000	4	4L
1000~1250	5	5L
1250~1500	6	6L

3 **運転スイッチを一度「入」にすると設定条件を記憶します**

続けて使用しない場合は、運転スイッチを「切」にする

表示部・操作部

設定温度/時 現在の温度/分 → 10 : 00

↓

HH : 2L

再設定する場合

(引越しなどで設定を変える場合)

電源プラグを差し込み、チャイルドロック、入タイマーボタンを同時に3秒以上押して、「標高・給排気設定」モードにする

手順2、3で設定します

- 表示部は時計表示になっています

据付工事後の点検・確認

据付工事が終わりましたら、下表に従ってもう一度点検・確認をしてください。

不具合がありますと火災・排気ガスのもれおよび不完全燃焼の原因となりますので必ず取付けなおしをしてください。

点検箇所	点検項目	参照ページ	チェック結果
製品	製品の回りは必要な空間がありますか。	2	
	床面の不安定な場所に据付けてありませんか。	3	
	丈夫な床面に製品が固定してありますか。	10	
	変質灯油、不純灯油を使用していませんか。油漏れはありませんか。	—	
	標高調節は正しく行われていますか。	13	
給排気部品	給排気筒トップの周囲は基準寸法が守られていますか。	3	
	排気筒は壁や給気ホースなどの可燃物から20mm以上離れていますか。	3	
	給排気筒のはずれ・ゆるみがありませんか。	8	
	排気ガスが屋外へ排気されるようになっていますか。	2･9	
	給排気筒トップの取付けが屋外に向って下り勾配になっていますか。	4	
	給排気筒トップの周囲に障害物(樹木・愛がん動物・雪のふきだまり)はありませんか。	2･4	
	給排気筒トップの周囲に危険物(灯油・ガソリン・プロパンガス)はありませんか。	4	
	トップフードが必ず取付けられていますか。	9	
	トップフードの給気口・排気口がビニール袋などの異物でふさがっていませんか。	4	
	集合煙突に給排気筒を取付けた工事はされていませんか。	4	
延長工事	床下・天井裏へ給排気してありませんか。	3	
	壁埋込みの配管工事はしてありませんか。	—	
	排気筒の長さは給気ホースに比べ極端に長くなっていませんか。	11	
	給気ホース・排気筒の長さは3m以内で、曲がり数3箇所以内ですか。	5	
	排気筒の途中に水がたまるようなへこみ部はありませんか。	5	
	排気筒のドレン戻り寸法は1.8m以下になっていますか。	5	
	古い排気筒を使用していませんか。	1	
電気配線	電源プラグはコンセントに確実に差し込まれていますか。	15	
	電源コードは高温部に触れていませんか。	7	
	電源コンセントは電源プラグの抜き差しが容易な位置にありますか。	7	
	ノイズの影響を受けやすいテレビやステレオなどと同じコンセントで使用していませんか。	—	
排気筒はずれ検知リード	排気筒はずれ検知リードは、給排気筒トップに接続されていますか。	9	
	排気筒はずれ検知リードは、給気ホースにそって固定されていますか。	9	

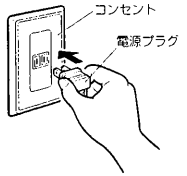
試運転(試運転モードによる試運転のしかた)

お客さまに引き渡す前に、お客さま立合いのうえ試運転モードによる運転で確認してください。

■試運転モードとは

機器を一時的に通常の運転状態より少し厳しめの条件にして運転を行い、安全装置の作動ポイントに対して余裕が確保できているか否かを確認します。
据付工事や、標高・給排気の設定などが正しく行われているかなどをチェックします。

運転準備



1 カートリッジタンクに給油する。

2 置台などに油漏れ、油のにじみがないか確認する。

3 電源プラグをコンセント(AC100V)に確実に差し込む。

試運転モードによる試運転チェックのしかた

運転スイッチと予熱(クイック)スイッチを「切」にします。「チャイルドロック」ボタンと「▼時」ボタンを同時に3秒以上押して試運転モードにします。

※試運転モードになると表示部にVKT-302RCは「30 P0」、VKT-402RCは「40 P0」が表示されます。

〈試運転モード開始〉

1.運転スイッチを押して「入」にします。

●運転ランプが点灯し、約5～6分後に燃焼を開始します。①→⑦の順にシーケンスが進み、約15分間試運転モードにより自動運転を行います。

※①から⑦の順にシーケンスが進む

チェック項目	表示部の表示 左	表示部の表示 右	表示部右(および左側の右)の内容	表示方法
① ヒートアップ	Oh	00~24	00：180℃以下 18：181~210℃ 21：211~220℃ 22：221~230℃ 23：231~240℃ 24：241℃以上	点滅
② 着火性能の余裕チェック	OA	□□	炎電流値 (表示値の1/2が実際の炎電流値です)	各モード終了の少し前に右側の表示が点滅から点灯に切換わり、点灯時にデータを読み込む
③ 着火ノッチ燃焼での異常燃焼余裕チェック	Ob	□□		
④ 強燃焼での異常燃焼余裕チェック	OC	□□		
⑤ 弱燃焼での異常燃焼余裕チェック	Od	□□		
⑥ 燃焼用送風機の回転数チェック	U□	□□	送風機回転数の補正値を±で表示する 例：−10	
⑦ 温風センサーの温度チェック	F□	□□	温風センサーの温度 例：F1 20=120℃	

2.試運転モード運転中に通常運転時に発生するエラーが発生した場合、その時点でエラーコードを表示し、運転を停止します。

3.試運転モードによる試運転が終了すると燃焼が停止し、全てOKの場合は表示部に「00 00」を表示します。

4.余裕が確保できていない場合は、表示部左側にチェック項目に該当する記号を表示し、右側には「11」を表示します。(例：着火性能の余裕チェックの場合「OA 11」)
複数のチェック項目に該当するものがある場合は、5秒間隔でこの表示を繰り返します。

試運転モードの解除

●運転スイッチを「切」にすると試運転モードは解除されます。
途中で試運転モードを解除したい場合は、運転スイッチを「切」にしてください。

エラー表示や余裕が確保できていない表示があった場合の処置について

1.表示部に表示されるエラー表示に従って、確認と処置を行ってください。

2.表1以外のエラー表示が発生した場合は、取扱説明書(20～21ページ)の内容に従って処置をしてください。

〈表1〉

	表示部		確認箇所	処置方法
①	E−	04	·制御回路ヒーター温度検知部が故障している。 ·ヒーターサーモが短絡故障している。	·制御回路を交換してください。 ·ヒーターサーモを交換してください。
	E−	03	·ヒーターサーモがオープン故障している。 ·気化ヒーターが断線している。	·ヒーターサーモを交換してください。 ·気化ヒーターを交換してください。
②	OA	11	·標高設定が高めに設定されていないか。 ·着火時の炎が不安定である。 ·給排短絡していないか。	·正しい標高設定をしてください。(据付工事説明書13ページ参照) ·電磁ポンプの油量が少ない。 ·給排気筒トップ周辺に障害物がないか確認してください。
	E−	01	·放電音が聞こえない。	·点火トランスのリード線の接続を確認してください。
③	Ob	11	·標高設定が低めに設定されている。 ·給排気延長長さが長い。	·正しい標高に設定し直してください。(据付工事説明書13ページ参照) ·延長給排気工事の場合、規定(3m3曲り)以内の長さに修正してください。
④	OC	11	·給排気口に異物が詰まっている。 ·給排短絡していないか。	·異物を取除いてください。 ·給排気筒トップ近傍に障害物がないか、排気ガスが給気に吸込まれるようなよどみがないか確認してください。
⑤	Od	11	·標高設定が高めに設定されている。	·正しい標高に設定してください。
	E−	01	·炎が不安定である。	·電磁ポンプの油量が少ない。
⑥	OU	11	·給気口が閉塞されていないか。	·閉塞物を取除いてください。
⑦	OF	11	·温風吹出口を障害物が塞いでいないか。 ·対流用送風機が回っているか。 ·温風がショートサイクルしていないか。	·障害物を取除いてください。 ·対流用送風機の回転を確認してください。 ·ショートサイクルの原因を取除いてください。

〈表1に基づくチェックで原因が不明な場合の処置〉

●試運転モードチェックで余裕が確保されていないとの表示がされ、表1のチェックを行っても原因が不明な場合は、運転は可能ですが、安全装置の作動に対して余裕をもった運転状態にするため、製品の油量を表2に従って変更する処置を行ってください。

〈表2〉

	手順			表示部の表示内容
1	「入タイマー」ボタンと「チャイルドロック」ボタンを同時に押しながら電源プラグをコンセントに差込む			[30 CP]または[40 CP]
2	運転スイッチを「入」にする			[PA 0]
3	PA(電磁ポンプパルス幅)を変更する	油量を増やす場合	▲分 ボタンを押すことにPAが1すつ増える(3まで)	[PA 1]
		油量を減らす場合	▼時 ボタンを押すごとにPAが1すつ減る(−3まで)	[PA −1]
4	運転スイッチを「切」にして電源プラグをコンセントから抜き、再度差込む(電磁ポンプパルス幅変更モードを解除します)			時計表示部の点滅

※PAが1変わるごとに油量が約4%変化します。

[30 CP]はVKT-302RC [40 CP]はVKT-402RCを表わします。

お客さまへの説明

1. 取扱説明書によって製品の取扱いを説明してください。
2. 保証書に必要事項を記入のうえ、保管のお願いをしてください。
3. この据付工事説明書は引っ越しなどで製品を移動する際に必要となりますので、取扱説明書とともに必ずお客さまに渡して、一緒に保管してくださるようお願いしてください。

製品を廃棄するときの注意

製品を廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。リサイクルの支障となります。

三菱電機株式会社
中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒場町1番3号

この説明書は、再生紙を使用しています。